

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170102434		
法人名	丸正篠田薬品株式会社		
事業所名	グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」		
所在地	岐阜県岐阜市都通り1丁目18番地		
自己評価作成日	平成27年9月4日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.2014.022.kani=true&amp;Ji.gyosyoCd=2170102434-00&amp;Pr.efCd=21&amp;Ver.si.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.2014.022.kani=true&amp;Ji.gyosyoCd=2170102434-00&amp;Pr.efCd=21&amp;Ver.si.onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年10月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

心地良い家庭的な雰囲気大切に、安心して暮らせる生活をサポートします。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「家庭的な雰囲気」を重視した事業所独自の理念を掲げ、その実現に努めている。利用者が家庭と同じように自立して日常生活ができるように心がけ、自分の部屋は職員も手伝いながら、自身で掃除を行っている。箸で食べることを好む人には、軟らかい食品でもスプーンを強制せず、食べる楽しみを損なわないように支援している。入居時おむつ使用の利用者には、注意深く見守ることによりその人に合った排泄時間を把握し、紙パンツから布パンツへと、徐々に排泄が自立できるように支援している。入居時に看取りの契約を交わして24時間医療連携を行い、職員を教育し、マニュアルを見やすいところに掲示するなど終末期を看取る体制を構築している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日常的に職員と話しており、常時、職員は、理念を念頭において仕事に従事している。 また、わかりやすいように運営理念を提示している。	法人の理念をわかり易い形にし、家庭的な雰囲気を目指した事業所独自の理念を掲げている。毎日、朝と夕にミーティングを行ない、理念が日々の介護に活かされているかを職員間で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、積極的に挨拶したり、話しかけたりして、顔見知りの関係を築いている。 地域の一員として、清掃活動、高齢者予防教室などにも参加している。	日々の散歩時には近所の方々と気軽に声を掛け合ったり、歩道を自主的に掃除したりして、地域との関係を築くことに努めている。しかし、近隣住民の事業所への訪問が比較的少ない。	利用者と園児や学童が、事業所と保育園や小学校をお互いに行き来するなど地域との交流がより活発になっていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、社協での民生委員を含めた会議に出席し、町内会等でも絶えず、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行政、自治会員、家族に、事業所の状況や取り組みを報告したり、意見交換を生かし、サービスの向上に活かしている。	事業所からは行事内容、利用状況の報告のほか、外部評価結果、事故、ヒヤリハットなどを報告している。地域の人からは避難訓練について場所の提案を受け、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者間のネットワークを通じて働きかけている。 毎月、訪問又は電話にて担当者と接触し、情報交換を行っている。	事業所は、市の担当者を訪問するほか電話で現況報告や相談の情報交換をしている。市からは事業所へ定期的な訪問がある。言葉を取り交わす機会が多く、市とは密接な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時行うカンファレンスの中で教育し、職員全員が理解し取り組んでいる。 部屋には鍵をかけておらず、自由に入出しして頂いている。	身体拘束はしないことを事業所の基本としており、全職員が理解している。日中は玄関を施錠していない。排便時に不潔行為のあった人には、常に見守りすることによって拘束しない介護に努めている。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法を理解しており、グループホーム内では、決してその様な事があってはならない事を充分理解して注意を払っている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、これらの制度を学び、必要に応じて、利用者様が活用できるように、スタッフ会議等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、全て書面に記載し、その上で十分な説明を行い、理解され、納得された者とししか契約しない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日利用者様の顔色や表情を伺いながら、要望を聞いたり、感じ取るなどしてスタッフは行動している。 また、ご意見箱などを設置して自由に意見を頂ける様にしている。	日常会話の中から利用者の意見を聞いている。家族には管理者がいる時間を伝えて訪問を依頼し、意見を聞く機会を作っている。食事の味付けや入浴回数を改善したり、トイレの改修を行ったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上行われているカンファレンスで意見を聞いている。 また、日常の業務の中で、随時どんな意見や提案も聞き、出来る限り取り入れるようにしている。	会議で意見を聞くと共に、日常的にも意見を聞いている。リーダーを設け、困ったことや意見をより細かく取りこめる体制にしている。職員の意見により、コピー機の購入や布団からベッドへの交換を実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ全員を家族の様に思っており、常にスタッフ一人一人の心境に気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修参加を重視している。 職員一人一人は、管理者から指導や助言を受け、資料の提供などを受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会議の参加等で交流を深め、意見交換をしている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、アセスメントを行っている。 本人の話す事や情報を、見過ごさないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が心配される事無く、利用者様に利用してもらえるように、どんな意見にも耳を傾け、話し合い、納得されるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族以外にも、医師やケアマネ、相談員を交えて、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に声掛けをし、一緒に散歩に出かけたり、掃除、洗濯、買い物等の行動を共にして、家族の様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議やお楽しみ会に参加して頂き、交流の場を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手の都合に配慮をしながら、自由に電話連絡が出来るし、特に時間拘束も無いので、家族の協力を得て、自由に外出されている。	会話だけでなく独り言の中からも、馴染みの人や場所を把握するようにしている。友人が毎日のように訪ねてくれる利用者もいる。家族には定期的に訪問していただくように協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、インストラクターによる物作りや遊びで、助け合い、触れ合える場を作っている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談にのっており、ご家族には感謝されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて、強制する事無く、自由に暮らして頂いている。 意思表示の困難な方は顔色を窺いながら、気持ちを汲み取っている。	希望を伝えにくい人には、職員から話しかけて会話を増やし思いや意向を把握している。 他者への訪問客を見て沈んでいる人には、その思いを察し家族に電話をして訪問を依頼している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個室には、使い慣れたベットやタンス等、家具を持ち込むなどして、あまり生活環境を変えない様に、生活して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者様と同じ空間で過ごす為、常に一人一人の様子を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間毎の見直しをしている。 それ以外にも、状況の変化に素早く対応して、計画を練り直している。	利用者、家族と面談し、必要であれば何回も会い、職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。毎月モニタリングし、変更事項がある時、又は半年ごとに介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報により、行動、特記事項、連絡事項を記録している。 また、一人一人に対してチェック表に、排泄、バイタル、食事量、水分量等を詳しく記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の求めている事を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を明らかにしてから、支援やサービスに取り組んでいる。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、警察署、交番に十分に働きかけ、見守りの協力を得ている。 職員も、地域の人々に溶け込んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より掛かり付け医のある方は、引き続き受診されている。 特に希望の無い方に対しては、提供医療機関にお願いしている。	職員が同行し、かかりつけ医を受診する時は結果を家族に知らせ、家族が同行受診する時は事業所の様子を書類で伝えている。日報に薬確認欄を作り職員全員が変更等を確認し、誤薬しないようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置が無い為、掛かり付け医に相談し、受診し、一人一人の健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者が出向いたり、電話等により話し合いをして、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師やご家族と十分に話し合い、出来る限りの情報提供を行い、職員全員で支援している。	入居時に看取りが出来ることを伝え契約を交わしている。状態変化時には気持ちが揺らぐことを理解し、その都度話し合いしている。24時間医療連携を行い、看取りへの職員教育を行っている。マニュアルを用意し、常時見やすいところに置いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議やカンファレンスの中で訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は、職員が災害時に避難誘導が出来る様、教育し訓練している。運営推進会議等で、自治会に協力をお願いしている。夜間想定訓練も行っている。	夜間想定訓練を行ない、避難方法などの問題点を話し合っている。近隣への協力依頼や、運営推進会議を通して地域の意見を取り上げている。おむつや飲料水など非常時の備蓄を行なっている。	

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、時には意見を仰ぐようにしている。 入浴や排泄の誘導等には特に、プライバシーに配慮して行っている。	収集癖のある人には、その人の気持ちや人格を尊重し、物品を隠さず見守りしている。失禁時は居室で衣類交換し、言葉かけも失礼のないように名字で呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と一緒に買い物に出掛け、ご自分で品物を選んで、支払いをして頂いている。 (可能な方の場合) 好きなテレビ番組を選んで、チャンネルを合わせて観て頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムの中で、利用者様が自分のペースで暮らせるように、自由にしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は、それぞれの好みの髪型、服装をしており、それぞれおしゃれを楽しんでいる。 理美容院の利用を希望される時は、職員が付き添ったり、ご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必ず、利用者様の方を向いて笑顔で会話を楽しみながら、一緒に食事をする様に心掛けている。利用者様と一緒に食材を買いに行ったり、可能な限り、一緒に調理をしたり、後片付けをしている。	個別の力を活かし職員と一緒に下膳やコップ洗いをしている。箸で食べることを好む人には、軟らかい食品でもスプーンを強制せず食べる楽しみを支援している。食事中は会話をし笑顔が途切れないようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、食事内容、水分量をチェックし、記入している。 また、一人一人の状態に合わせて、細かく刻んだり、柔らかく煮たりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に、食後のうがい、歯磨きを支援している。 それ以外にも、朝、晩のケアも実施している。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入から、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや見守りにより、出来る限りオムツを使わず、トイレへと誘導している。	日中はトイレ排泄を心がけ、その人に合わせた誘導をしている。男性には立位での排泄習慣を尊重し支援している。注意深く見守ることによりその人に合った誘導をして、おむつから自立に近くなった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、食物繊維の多い野菜を多く取り入れた食事を提供している。 また、水分量も把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、ご本人の体調とチェック表を確認し、入浴の可否を見極めている。 入浴は、週2回以上のペースとしているが、希望があれば随時入浴可能である。	心臓疾患など病気があっても浴槽に首までつかりたい希望のある人には、傍で時間を計って入浴を支援している。湯加減や順番など希望に沿った入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者様とは、他の利用者様に配慮しつつ、一緒に談話室でお話をしたり、ベットまで誘導し、落ち着いて眠りにつかれるまで見守りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	代表者が薬剤師である為、常に、薬の目的、副作用等がチェックされており、職員に指導されている。用法、用量が間違わない為にも、薬は全て一包化され、氏名と服用時が印字されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後片付けや、洗濯を干したり取り込んで畳んだり、自室の掃除をしたりと、それぞれの場合で役割作りがされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の出掛けたり、個人的に欲しい物があれば買い物に行ったりと、希望があれば職員と一緒に出掛けている。 墓参り、外食、旅行など遠くの場合は、家族の協力を得て出掛けられる様支援している。	天気が良ければ、公園や近くの神社などへ散歩に行っている。希望の外食など外出時はトイレの状態などを前もって把握し出かけている。座る場所などは、外食店などの協力を得て座りやすく、トイレに近い位置を提供してもらっている。	

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な利用者様は、自分で言い、不可能な利用者様は、その都度ご本人の預かり金からお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話機が設置されており、利用者様は好きな時に使う事が出来るようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、室内全て家庭的な雰囲気を作っている。 ビルの階段、居間、各部屋には、季節を感じる飾り物や花を置いている。	ハロウインの魔女の黒い帽子やカボチャ、柿を活けた花瓶を窓や玄関に飾っている。生け花教室では、菊など活け季節感を感じてもらっている。窓を開けて換気を行い、ポトスなど観葉植物を窓辺において家庭的な雰囲気を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の部屋には、他の利用者様が無断で入室できない規則になっている。 又、気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるようにリビングを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今までにご本人が使用していた家具や生活用品が持ち込まれている。 家族写真や、職員と一緒に作った作品、生け花なども飾ってある。	家庭と同じように、日常生活での自立を心がけ、自分の部屋は職員も手伝いながら掃除している。40年前の夫の遺影がほしいという人には家族へ連絡したり、自宅から持ってきた家具を置いたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個人部屋には、ご本人のお名前、顔写真を、トイレ、お風呂には案内を貼って、わかりやすい工夫がしてある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102434		
法人名	丸正篠田薬品株式会社		
事業所名	グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」		
所在地	岐阜県岐阜市都通1丁目18番地		
自己評価作成日	平成27年9月4日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2170102434-00&amp;Pr ef Cd=21&amp;Versi onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2170102434-00&amp;Pr ef Cd=21&amp;Versi onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心地良い家庭的な雰囲気を大切に、安心して暮らせる生活をサポートします。
-------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、日常的に職員と話しており、常時、職員は、理念を念頭において仕事に従事している。 また、わかりやすいように運営理念を提示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、積極的に挨拶したり、話しかけたりして、顔見知りの関係を築いている。 地域の一員として、清掃活動、高齢者予防教室などにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、社協での民生委員を含めた会議に出席し、町内会等でも絶えず、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行政、自治会員、家族に、事業所の状況や取り組みを報告したり、意見交換を生かし、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者間のネットワークを通じて働きかけている。 毎月、訪問又は電話にて担当者と接触し、情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時行うカンファレンスの中で教育し、職員全員が理解し取り組んでいる。 部屋には鍵をかけておらず、自由に出入りして頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法を理解しており、グループホーム内では、決してその様な事があってはならない事を充分理解して注意を払っている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、これらの制度を学び、必要に応じて、利用者様が活用できるように、スタッフ会議等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、全て書面に記載し、その上で十分な説明を行い、理解され、納得された者とししか契約しない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日利用者様の顔色や表情を伺いながら、要望を聞いたり、感じ取るなどしてスタッフは行動している。 また、ご意見箱などを設置して自由に意見を頂ける様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上行われているカンファレンスで意見を聞いている。 また、日常の業務の中で、随時どんな意見や提案も聞き、出来る限り取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ全員を家族の様に思っており、常にスタッフ一人一人の心境に気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修参加を重視している。 職員一人一人は、管理者から指導や助言を受け、資料の提供などを受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会議の参加等で交流を深め、意見交換をしている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、アセスメントを行っている。 本人の話す事や情報を、見過ごさないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が心配される事無く、利用者様に利用してもらえるように、どんな意見にも耳を傾け、話し合い、納得されるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族以外にも、医師やケアマネ、相談員を交えて、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に声掛けをし、一緒に散歩に出かけたり、掃除、洗濯、買い物等の行動を共にして、家族の様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議やお楽しみ会に参加して頂き、交流の場を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手の都合に配慮をしながら、自由に電話連絡が出来るし、特に時間拘束も無いので、家族の協力を得て、自由に外出されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、インストラクターによる物作りや遊びで、助け合い、触れ合える場を作っている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談にのっており、ご家族には感謝されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて、強制する事無く、自由に暮らして頂いている。 意思表示の困難な方は顔色を窺いながら、気持ちを汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個室には、使い慣れたベットやタンス等、家具を持ち込むなどして、あまり生活環境を変えない様に、生活して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者様と同じ空間で過ごす為、常に一人一人の様子を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間毎の見直しをしている。 それ以外にも、状況の変化に素早く対応して、計画を練り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報により、行動、特記事項、連絡事項を記録している。 また、一人一人に対してチェック表に、排泄、バイタル、食分量、水分量等を詳しく記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の求めている事を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を明らかにしてから、支援やサービスに取り組んでいる。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、警察署、交番に十分に働きかけ、見守りの協力を得ている。 職員も、地域の人々に溶け込んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より掛かり付け医のある方は、引き続き受診されている。 特に希望の無い方に対しては、提供医療機関にお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置が無い為、掛かり付け医に相談し、受診し、一人一人の健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者が出向いたり、電話等により話し合いをして、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師やご家族と十分に話し合い、出来る限りの情報提供を行い、職員全員で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議やカンファレンスの中で訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は、職員が災害時に避難誘導が出来る様、教育し訓練している。運営推進会議等で、自治会に協力をお願いしている。夜間想定訓練も行っている。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、時には意見を仰ぐようにしている。 入浴や排泄の誘導等には特に、プライバシーに配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と一緒に買い物に出掛け、ご自分で品物を選んで、支払いをして頂いている。 (可能な方の場合) 好きなテレビ番組を選んで、チャンネルを合わせて観て頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムの中で、利用者様が自分のペースで暮らせるように、自由にしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は、それぞれの好みの髪型、服装をしており、それぞれおしゃれを楽しんでいる。 理美容院の利用を希望される時は、職員が付き添ったり、ご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必ず、利用者様の方を向いて笑顔で会話を楽しみながら、一緒に食事をする様に心掛けている。利用者様と一緒に食材を買いに行ったり、可能な限り、一緒に調理をしたり、後片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、食事内容、水分量をチェックし、記入している。 また、一人一人の状態に合わせて、細かく刻んだり、柔らかく煮たりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に、食後のうがい、歯磨きを支援している。 それ以外にも、朝、晩のケアも実施している。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入から、一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや見守りにより、出来る限りオムツを使わず、トイレへと誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、食物繊維の多い野菜を多く取り入れた食事を提供している。 また、水分量も把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、ご本人の体調とチェック表を確認し、入浴の可否を見極めている。 入浴は、週2回以上のペースとしているが、希望があれば随時入浴可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者様とは、他の利用者様に配慮しつつ、一緒に談話室でお話をしたり、ベットまで誘導し、落ち着いて眠りにつかれるまで見守りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	代表者が薬剤師である為、常に、薬の目的、副作用等がチェックされており、職員に指導されている。用法、用量が間違わない為にも、薬は全て一包装され、氏名と服用時が印字されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後片付けや、洗濯を干したり取り込んで畳んだり、自室の掃除をしたりと、それぞれの場合で役割作りがされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の出掛けたり、個人的に欲しい物があれば買い物に行ったりと、希望があれば職員と一緒に出掛けている。 墓参り、外食、旅行など遠くの場合は、家族の協力を得て出掛けられる様支援している。		

グループホーム「櫻(けやき)並木の家族」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な利用者様は、自分でを行い、不可能な利用者様は、その都度ご本人の預かり金からお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話機が設置されており、利用者様は好きな時に使う事が出来るようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、室内全て家庭的な雰囲気を作っている。 ビルの階段、居間、各部屋には、季節を感じる飾り物や花を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の部屋には、他の利用者様が無断で入室できない規則になっている。 又、気の合った利用者様同士と一緒に過ごせるようにリビングを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の部屋には、今までにご本人が使用していた家具や生活用品が持ち込まれている。 家族写真や、職員と一緒に作った作品、生け花なども飾ってある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個人部屋には、ご本人のお名前、顔写真を、トイレ、お風呂には案内を貼って、わかりやすい工夫がしてある。		